

# 病棟紹介 救命救急センター初療・救急病棟

初療・救急看護師長 福永 博子

当院救命救急センターは北米型ERで、24時間365日、1次から2次までの患者さんを積極的に受け入れています。昨年度の患者数は約6,200名、救急車受け入れ台数は約3,300台と、兵庫県下でも有数の受け入れ施設で、ドクターヘリの週2日の駐機やドクターカー運用により、プレホスピタル医療にも尽力しています。当院への主な搬送例は心肺停止、交通事故・転落による多発外傷、重篤な脳血管障害、心筋梗塞、狭心症等であり、生命の危険に瀕した患者さんです。

当部署は初療(救急外来)と救急病棟で成り立っています。

初療では、トリアージ・初療対応、時にはドクターヘリ・ドクター

カーで現場に急行し、患者さんの救命処置・ケアを行っています。併設されている救急病棟は、病床数が20床で、初療から緊急度、重症度の高い患者さんや、ICUでの治療を受け病態がやや落ち着いた患者さんなど、疾患・年齢・診療科や重傷度を問わず様々な急性期入院を受け入れています。入院期間は短期間ですが、初療に来た時点から退院後のあるべき姿を想定して、常にQOLの向上を目指しています。また、災害拠点病院として災害発生時に中心的役割を果たせるように、災害訓練にも熱心に取り組んでいます。

初療・救急病棟で働く看護師には、どのような状況下においても限られた時間と少ない情報の中での適切な対応、危機的状態にある患者さんとその家族への精神的ケア、様々な職種に対してのコーディネート、退院後を見据えた社会的サポート等が求められます。このように、求められる知識や技術、コミュニケーション能力や調整能力などは多岐に渡りますので、継続的な自己研鑽は欠かせません。スタッフ全員が常に向上していけるよう院内や外部の研修にも積極的に参加し、これからも看護師としてのスキルアップに努めていきます。



救急病棟



ER



熊本地震では、当院のDMATも支援活動を行ってきました



ドクターヘリ活動



初療対応・急変を想定して日々シミュレーションを行なっています